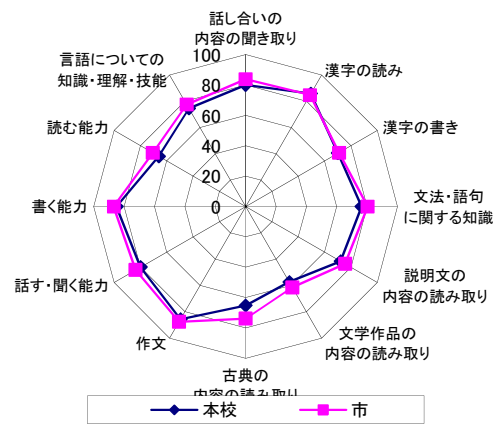


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	79.9	83.7
	漢字の読み	85.8	84.7
	漢字の書き	70.1	70.9
	文法・語句に関する知識	76.2	80.3
	説明文の内容の読み取り	72.1	75.5
	文学作品の内容の読み取り	57.4	61.6
	古典の内容の読み取り	65.1	73.9
	作文	85.8	87.7
	話す・聞く能力	79.9	83.7
観点別	書く能力	85.0	86.9
	読む能力	66.0	70.6
	言語についての知識・理解・技能	74.6	77.6



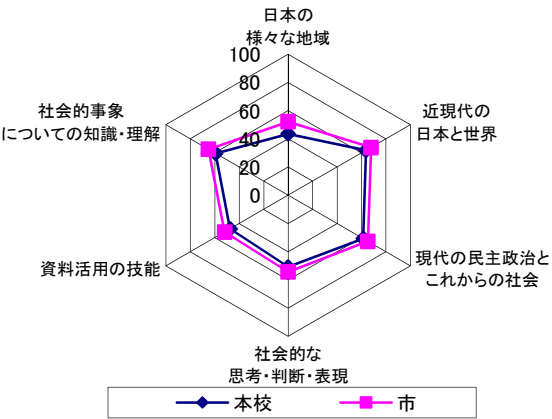
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	本市の平均をやや下回っている。授業中の話を聞く態度は大変良いが、聞いたことをメモする力にやや欠けるところがある。また個人差も大きい。	聞き取りテストを定期的に行ったり、指導者が話すことを正確にメモさせたりする学習訓練をしていきたい。
漢字	本市の平均とほぼ同じである。単元前の語句や漢字の練習の予習を継続的に行った成果が出たと思われる。	今年度に引き続き、授業前の漢字小テストを実施していく。漢字の予習と点検も継続していきたい。
文法・語句に関する知識	文法は動詞の活用の種類や形容詞、形容動詞の活用の仕方を十分に習得していない生徒が目につく。	単元の学習だけでなく、日常的に言葉の学習を取り上げ、体系的に文法学習をさせていきたい。
説明文の内容の読み取り	3年生になると説明的文章も抽象的な表現が多くなってくる。その表現を文脈にそって読んでいても、自分で考えることができない生徒が目についた。	抽象的な文章でも、筆者は具体例を提示してわかりやすく文章を書いていることが多い。そこに着目させて、生徒自らも自分の具体的体験で置き換えてみる、そんな授業展開をしていきたい。
文学作品の内容の読み取り	文学的文章は好んで授業に取り組んでいるが、自己流の解釈に陥ってしまうことがある。根拠を明らかにしてなぜ、そう言えるのかという取り組みに甘さのある生徒も見受けられた。	根拠を明らかにして、主人公や登場人物の心情に迫るという授業展開を増やしていきたい。また、情景描写にも着目させていきたい。
古典の内容の読み取り	重要古語、主語の見極め、助詞の省略など、覚えるべきことが多い。教科書の古典作品のテストの評価は高いが、他の作品への応用力がやや欠ける。	教科書掲載の古典作品をしっかりと学ぶことはもちろんであるが、他の古典作品にも触れる機会を多くしたい。
作文	本市の平均に近い。作文を書くことが好きな生徒が多い。ただ、視点が共通しているため、物事を多面的に見る力にやや欠ける。	短文づくりや単作文を書く機会を多くしていき、さらなる作文力向上のために力を尽くしていきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	日本の様々な地域	43.5	52.1
	近現代の日本と世界	63.6	67.8
	現代の民主政治とこれからの社会	61.4	65.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	50.8	54.3
	資料活用 of 技能	47.6	52.1
	社会的事象についての知識・理解	59.4	65.2



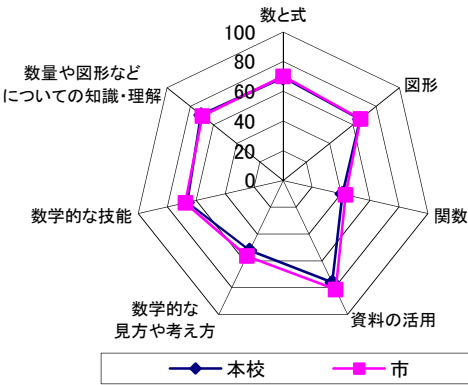
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	日本の様々な地域	日本国内の交通の様子に関する理解をもとに、複数の資料について考えることに関しては、55.6%と市の正答率を上回ることができた。しかし、太平洋ベルトについての正答率が、29.6%と市の正答率の59.4%を著しく下回っている。	白地図やグラフに色をぬらせることで、視覚的に分かりやすくし、日本の工業地域が形成された背景や、工業生産の特色について理解させていきたい。
歴史	近現代の日本と世界	第2次世界大戦後の我が国の経済復興を世界情勢と関連付けて考えたりすることや高度経済成長期の様子を資料から読み取ることに關して、61.7%、58.0%と市平均を上回っていた。自由民権運動に關して、55.6%と市正答率の66.8%を下回っている。	我が国の民主化と再建の過程、高度経済成長などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりさせることでより考えを深めさせたい。 自由民権運動から憲法制定に至る、民権側と政府側の主張の相違について考察することを通して、自由民権運動を理解させるようにしていきたい。
公民	現代の民主政治とこれからの社会	市平均を3.8%下回ってはいるが、基礎・基本の定着が図れている。ただ、公共の福祉に關して自分の言葉で表現することや、日本の選挙制度のしくみから、与えられた条件で当選者数を考えるといった問題の正答率が市平均より低い。基礎基本的な知識を活用して考える力が不足している。	「朝日訴訟」や「生存権について報道する新聞(クーラーはぜいたくか)」などの具体的事例を通して、「人間に値する」生活についてディベートを行うことで自分の考えを表現する場を設けたり、選挙区の規模や定数、選出方法が変わると選挙結果も影響を受けることについてシミュレーションを通して理解を深める等、基礎基本的知識を活用して考察する場を積極的に設けていきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	69.2	70.1
	図形	66.0	66.4
	関数	40.8	43.0
	資料の活用	76.1	81.4
観点別	数学的な見方や考え方	52.3	56.4
	数学的な技能	66.3	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	70.7	69.6



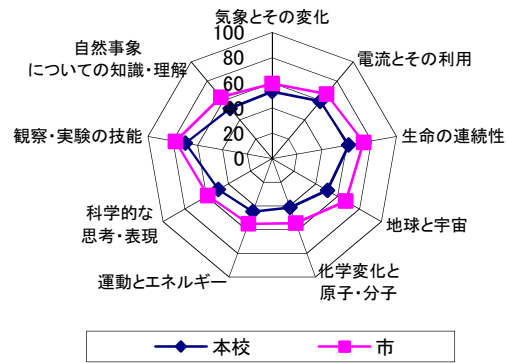
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	多項式の展開・因数分解などの計算の正答率は市の平均を上回っているが、平方根、2次方程式の計算については下回っている。	平方根、2次方程式の意味についてしっかり理解させ、朝の学習等で継続的に計算に取り組ませ、定着を図りたい。
図形	三角形・四角形の性質を用いて角度を求める問題についてはほぼ市の平均と等しい。相似であることを利用して線分の長さを求める問題は市より5ポイント上回っている。証明問題についてはほぼ市と同じような状況である。	2年生の学習内容にさかのぼって、図形の性質について復習、整理させ、それをもとに証明の力を高めていきたい。
関数	関数の基本的な問題に関しては市の平均を10ポイントほど上回っており、ほぼ満足できる状況である。しかし具体的な場面で事象を関数的に捉え、それを利用し考察していく問題の正答率は低い。	関数の意味や表、式、グラフの関係をしっかり理解させ、具体的な場面でそれを利用するような問題に取り組む機会を多く設定し、活用できる力を身につけさせたい。
資料の活用	確率を求める基本的な問題であるが、正答率が市の平均を下回っている。	確率は2年生の最後に学習した内容であり、時間がたっていることもあり定着が不十分である。繰り返し復習する機会を設定していきたい。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	気象とその変化	53.1	59.4
	電流とその利用	59.3	66.9
	生命の連続性	61.6	73.6
	地球と宇宙	50.6	67.4
	化学変化と原子・分子	41.4	54.6
	運動とエネルギー	44.9	55.1
観点別	科学的な思考・表現	49.2	58.9
	観察・実験の技能	70.0	77.9
	自然事象についての知識・理解	51.8	63.5



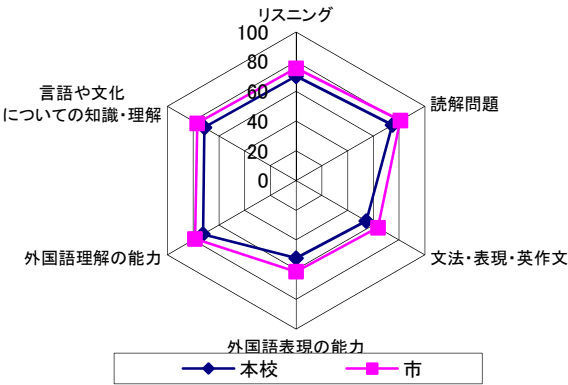
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
気象とその変化	天気図に関する内容は市の平均程度であったが、水蒸気と湿度、前線に関する内容の得点率が低かった。	気象の仕組みや露点、湿度などの考え方を、記憶だけに頼らず、しっかりと理解させることが必要である。
電流とその利用	電流と磁界の中で、特に電磁誘導、誘導電流に関する内容の得点が低かった。	電流が磁界から受ける力についての学習と、電磁誘導に関する学習について、関連させて覚えること、区別しておぼえることを明確にして指導を加える。
生命の連続性	細胞分裂については、その過程における変化の理解は十分であったが、分裂の細かい内容や成長との結びつきについての理解ができていない。	細胞分裂の表面的な変化は興味深いのが、その細かい内容や、意味、遺伝子との関連について、さらに指導を加えていく必要がある。
地球と宇宙	天体に関わる様々な現象とモデルによる説明がうまく結びついていないと考えられる。	モデルによる視覚的な学習とともに、演習問題も多く取り入れる必要がある。
化学変化と原子・分子	イオンに関する基礎的な知識が不十分である。そのため、化学電池や中和の仕組みが理解できないようである。	原子とイオンの違いや、陰イオン、陽イオンができる仕組みなど、基本からしっかりと理解させる。モデル等を駆使し、中和等におけるイオンの数の変化などを考えさせる。
運動とエネルギー	仕事の量を正確に計算できできないため、仕事の原理の意味がわかっていても、計算に応用できない。慣性と等速直線運動の関係が正しく捉えられていない。	計算や思考を伴う問題を苦手とする生徒が多いようなので、練習問題を多く解かせることが必要である。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	70.1	75.5
	読解問題	74.7	80.9
	文法・表現・英作文	54.4	63.5
観点別	外国語表現の能力	52.2	61.4
	外国語理解の能力	72.4	78.7
	言語や文化についての知識・理解	71.4	76.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	日頃から英語をできるだけ使いながら授業を進めているが、まとまりのある英文を聞いて内容を理解したり、問いかけに対する応答の仕方が十分に理解されていない生徒が数多く見られる。	まとまりのある英文を聞いて、概要を理解したり、必要な情報を聞き取ることが必要である。基本的なリスニングの技術の定着とともに、英語特有の表現や定型会話表現をしっかりと身に付けさせたい。
読解問題	教科書の本文を用いて、英問英答やTFテストを継続的に行っているが、生徒の語彙が十分でないため、分量の多い英文に抵抗を持っている生徒が多い。今後長い英文に慣れさせていく必要がある。	読み取りの力をつけるためには、多くの語彙や既習の文法をしっかりと身に付けさせる必要がある。一文一文の解釈をするのではなく全体の概要を読み取ろうとする態度をつけさせたい。長い文章やまとまった内容の英文を読む機会を増やしたい。
文法・表現・英作文	3つの領域の中でこの領域の力が一番不足している。並び替えの問題に比べ、和文英訳の問題の正答率が低い。語彙力を高めようと単語の発音や単語を書く練習をさせたが、十分に定着しておらず継続的な指導が必要である。	表現力を高めることは本校の課題であり、その基本となる語彙や基本文の定着を徹底することが必要である。場面に応じて使う英語特有の表現などもしっかりと身に付けさせたい。自分のことを英語で表現しようとする意欲や習慣をつけさせることも大切である。